

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	田辺昭人
発言の会議	平成29年 9月 8日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市 長、教育長

### 【件名及び発言の要旨】

#### 1 基本方針について

- (1) 市長選に臨むことを決められた際のお気持ちについて
- (2) 吉田市政8年間の総括について
- (3) 市政運営の基本方針とする「積極投資」の考えについて

#### 2 横須賀復活のための構想について

- (1) 海洋都市構想について
  - ア 「国際海の手文化都市」という都市像と海洋都市構想の関係性について
  - イ これまでの本市の取り組みにおける海が持つ可能性の活用状況について
  - ウ 久里浜港のポートセールスに対する考えについて
- (2) 「個性ある地域のコミュニティ再生」について
  - ア 横須賀の地域コミュニティの現状認識について

イ 現在の地域運営協議会に対する評価について

ウ 同協議会と市長が掲げるコミュニティ再生の方策との関係性について

### 3 横須賀復活の計画について

#### (1) 経済の復活について

ア 横須賀の悲願とも言える国道 357 号延伸を実現する方策について

イ 追浜駅前再開発は、行政センターの移転を含めて早期に行うことで、後に続く再開発計画のモデルケースとなるという考えに対する見解について

ウ 各地区の再開発をまちづくりやファシリティマネジメントなどさまざまな観点から検討し、グランドデザインに反映させていくことに対する思いと実施時期のめどについて

#### (2) 子どもの教育の復活について

ア 幼稚園・保育園の段階的無償化の目安と必要な経費について

イ 学力向上に向けた市と教育委員会との連携に対する教育長の考えと意気込みについて

ウ 「子どもが主役になれるまち」というフレーズを掲げ続ける意思の有無について

エ 小児医療費助成の拡大に係る経費の概算見込みについて

### 4 復活計画と総合計画との関係について

#### (1) 事業の見直しについて

ア 平成 29 年度の事業の精査状況について

イ 12 月定例議会での減額補正予算の提案または行政の連続性を重視した予算執行に対する考えについて

## 5 ファシリティマネジメントの推進について

- (1) 現行の施設配置適正化計画の「凍結」の意味について
- (2) 戦略的なプランの執行体制、検討時期及び策定期限について

## 6 コンプライアンスについて

基本姿勢の中で、「忠恕」という言葉を用いて職員に訓示を行ったことが示された。この言葉が意味する、自分の良心に忠実であるということを経営の原点と捉えた上で伺う。

- (1) 職員採用問題について
  - ア 改めて内部調査を行う考えの有無について
  - イ 猜疑心や不信感を払拭するために同調査が必要となるという考えに対する見解について
- (2) 市の出資法人とのかかわり方について
  - ア 市の出資法人のあり方について
  - イ 市が経営に関与できる仕組みが必要という考えに対する見解について

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	永井真人
発言の会議	平成29年 9月 8日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市 長

## 【件名及び発言の要旨】

- 1 市長に就任した現在の率直な感想について
- 2 基本姿勢について
  - (1) どのような市役所を目指していきたいか、現在の市役所の足りない部分も含めて伺う。
  - (2) 市役所の先頭に立つ市長の意気込みを伺う。
- 3 横須賀復活計画について
  - (1) 横須賀の復活が具体的に何を指すのか伺う。
  - (2) 市長が市民の支持を得たのは横須賀の復活という目標に共感を得たからだと考えるか伺う。
- 4 基本方針について
  - (1) 何をもって横須賀のまちが衰退してしまったと断じているのか市長の認識を伺う。

- (2) 本市の現在の財政状況について市長の認識を伺う。
- (3) どのように積極投資する市政へと転換していくのか伺う。
- (4) これまでの行財政改革の評価と今後の課題について伺う。
- (5) 大胆な行財政改革を断行する考えがあるか伺う。
- (6) 今後の数値目標とそれを実現させるための具体的方策について伺う。

## 5 横須賀復活のための3つの構想について

- (1) 海に囲まれたアドバンテージをどうまちづくりに生かしていくのか伺う。
- (2) 海洋都市構想が横須賀の復活にどうつながるのか伺う。
- (3) 音楽・スポーツ・エンターテイメント都市構想において、各種フェスティバルや大規模スポーツ大会の誘致などに向けた、市としての体制づくりをどのようにしていくのか伺う。
- (4) 谷戸再生構想は谷戸地域の構想なのか、全市的な構想なのか伺う。
- (5) 「谷戸公社」を立ち上げるプランは谷戸再生構想に含まれるか伺う。

## 6 横須賀復活の4つの計画について

- (1) 4つの計画と3つの構想との相関関係について伺う。
- (2) 国道357号の延伸について、どのように動いていくつもりか伺う。
- (3) 久里浜港の物流拠点としての将来像がどういったものなのか伺う。
- (4) 中心市街地などの再開発について、それぞれの協議会が示す基本計画をどのように後押しされるのか伺う。

- (5) 事業所と従業者の減少についての市長の認識と改善への意気込みについて伺う。
- (6) アドバイザー制度、融資制度及び人材紹介制度で事業所と従業者の著しい減少を食い止めることができるのか伺う。
- (7) 市長が考える賑わいの復活とはどのような状態なのか伺う。
- (8) 何度も訪れたいくなるまち横須賀の魅力を引き出すストーリーとは具体的に何か伺う。
- (9) 子どもの教育について市長の思いを伺う。
- (10) 幼稚園・保育園の段階的無償化について、どのように財源を充てていくつもりか伺う。
- (11) 学力向上にどのように取り組んでいくのか伺う。
- (12) 放課後児童クラブの問題点を解決する方策の実現性について伺う。
- (13) 同クラブへの市役所のかかわりを深めていくとは具体的にどのようなことを考えているのか伺う。
- (14) 小児医療費助成の拡大について、財源はどのように捻出するのか伺う。
- (15) コミュニティバスの導入について、どのような具体的方策を考えているのか伺う。
- (16) 福祉施設や保育園で働く方々へどのような支援をしていく考えか伺う。
- (17) 福祉の現場の課題にはどのようなものがあると認識されているか、またそれは介護ロボットの導入で解決できるものと考えているのか伺う。

## 7 復活計画と総合計画との関係について

- (1) 過去の市政運営について具体的にどのような分野にどういった予算配分が足りなかったのか、市長の分析を伺う。

- (2) (仮称)横須賀再興プランについて、具体的な施策が書き込まれた計画になるのか伺う。
- (3) (仮称)横須賀再興プランはどのような位置づけの計画になるのか、議決案件になるのか伺う。

## 8 ファシリティマネジメントの推進について

- (1) 人口減少に合わせて、多過ぎる施設の統廃合を行っていくという認識なのか、それとも施設の適正化を一旦凍結するのは人口減少を食いとめるという意気込みのあらわれなのか伺う。
- (2) 現行の施設配置適正化計画を凍結することだが、施設分野別実施計画も含めてゼロベースで考えるということなのか伺う。
- (3) 市民の意見や視点を取り入れていくプロセスについてどのようにお考えか伺う。

## 9 基地について

- (1) 日本の安全保障体制は実際のリスクや国際情勢を考慮したリアリズムに基づいて維持されているというお考えか、市長の認識を伺う。
- (2) 自衛隊、米海軍関係者との関係構築によって具体的にどのような方策、課題解決を目指していくつもりなのか伺う。
- (3) 国際情勢に合わせて増大する市民の不安に対してどのように応えていくつもりなのか伺う。
- (4) 地域振興策も含め、言うべきことは言い、求めるべきものはしっかり求めていくとは具体的にどのようなことなのか伺う。

## 10 目指すものは「誰も一人にさせないまち」について

- (1) 最終的な目標は問題や課題の解決そのものに置くべきと思うが市長の認識を伺う。

- (2) 日々課題と向き合っている職員の働きに対してどのように感じているか伺う。
- (3) 市長は何に対して協調と連帯を求めているのか、協調と連帯が図られたまちとはどのようなまちなのか伺う。
- (4) ご当地ナンバーになると、どのような「協調と連帯」が生まれ、どのようにまちづくりに生かされるとお考えか伺う。
- (5) 市長の考える「協調と連帯」とは横須賀市域だけのことを念頭に考えているか伺う。

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	鈴木真智子
発言の会議	平成29年 9月 8日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市 長

### 【件名及び発言の要旨】

#### 1 横須賀市政の立て直しについて

- (1) 市政の信頼回復に向けた決意と覚悟について

#### 2 海洋都市構想について

- (1) 国や県と連携した海洋博物館のような施設の誘致について
- (2) 海洋都市構想における同施設の位置づけについて

#### 3 音楽・スポーツ・エンターテイメント都市構想について

- (1) ウインドサーフィンワールドカップのような集客を見込める大会を最大限に生かす施策の重要性について
- (2) 横須賀リーフスタジアムにおけるトップアスリート参加のイベント開催の必要性について
- (3) 宿泊施設の積極的な誘致について

#### 4 谷戸再生構想について

- (1) 同構想にある「個性ある地域のコミュニティの再生」と市長が議員時代に提案していた「谷戸公社」との関連性について
- (2) 同構想の具体的な手順や制度設計について

#### 5 子どもの教育の復活について

- (1) 子育て支援並びに子どもの教育支援に対する市長の基本認識について
- (2) 幼稚園・保育園の段階的無償化に向けた方策及びその理由について
- (3) ICT教育と学力向上の相関関係に対する市長の認識について
- (4) 放課後児童対策について
  - ア 総合的な放課後児童対策に対する市長の認識について
  - イ 学童クラブの全小学校への配置と放課後子ども教室の一体的な配置に対する市長の見解について
- (5) 小児医療費助成の拡充について
  - ア 拡充の決断に至った経緯とその事業効果について
  - イ 他都市事例のメリットやデメリットを検証し、事業効果が最大限に発揮できるような制度設計を行う必要性について

#### 6 暮らしやすさの復活について

- (1) コミュニティバスの導入について
  - ア 本市におけるコミュニティバスのあり方に対する市長の所見について
  - イ 地域住民の意思が形となって誕生し、NPO法人が運行を継続してきたハマちゃんバスの実績に対する評価について

ウ 市長が主導し、行政が知恵を絞り柔軟な発想で地域交通のコミュニティバスを促進できるような取り組みについて

- (2) 住民票などの証明書の「コンビニ交付サービス」は、費用対効果を考慮に入れて導入を検討する必要性について

## 7 ファシリティマネジメントの推進について

- (1) 現行計画の問題点に対する市長の基本認識について
- (2) 今後の戦略プラン策定において重要視する視点について
- (3) 戦略プランの推進体制に係る市長の認識について
- (4) 総合的かつ戦略的なプランにするため、現行の保育園再編計画を見直す必要性について

## 8 行財政改革について

- (1) 「(仮称)横須賀再興プラン」策定に当たり、事務事業の見直しの必要性を含めた行財政改革に対する市長の所見について

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	角井 基
発言の会議	平成29年 9月 8日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市 長

### 【件名及び発言の要旨】

#### 1 海洋都市構想について

- (1) 豊かな食を提供できる店が不足していることについて
- (2) 新たな航路の整備における具体的な施策について
- (3) マリンレジャー・マリンスポーツの充実について
  - ア 走水海水浴場がもっと利用されるような工夫について
  - イ 海釣りのできる場所をふやすことについて
  - ウ 家族連れで楽しめるような場所づくりについて
  - エ これらを実現するための民間事業者への働きかけについて

#### 2 音楽・スポーツ・エンターテイメント都市構想について

- (1) 音楽フェスティバルなどのイメージについて
- (2) 子どもたちが音楽に触れる機会をつくることについて
  - ア 中学校のブラスバンド部への支援強化について
  - イ コミュニティセンターや小学校の音楽室などを練習場所と

して活用する考え方について

- (3) トップアスリートの招聘、大規模なスポーツ大会誘致などの腹案について
- (4) 「本物に触れる機会」の考え方について
- (5) 大きなイベントに必要な宿泊施設が少ないことについて

### 3 谷戸再生構想について

- (1) 従前の谷戸対策事業の継続の見込みについて
- (2) 買い物弱者対策としての移動販売車の駐車スペースづくりについて
- (3) 地域特性を生かしたコミュニティ再生の具体化について

### 4 経済・産業の復活について

- (1) 国道 357 号の延伸実現への意気込みについて
- (2) 追浜地域及び久里浜地域における再開発について
- (3) JR久里浜駅周辺にうわまち病院を移転する考え方について
- (4) 中小企業支援策としてのアドバイザー制度について
- (5) 人材紹介制度の具体案について

### 5 賑わいの復活について

- (1) 歴史遺産の活用について
  - ア 千代ヶ崎砲台跡の早期整備について
  - イ 浄楽寺の運慶作仏像の早期活用について
- (2) 浦賀行政センター等を整備する中で浦賀奉行所を「現代の奉行所」として復元することについて

- (3) 横浜DeNAベイスターズファームとの地域密着型連携について

## 6 子どもの教育の復活について

- (1) 幼稚園・保育園の段階的無償化について
  - ア 無償化する狙いについて
  - イ 無償化に必要な財政負担額及び段階的に行うという考え方とその効果について
  - ウ 公平を期すために待機児童をなくすことの必要性について
  - エ 無償化に伴う入園希望児増加の懸念について
  - オ 所得制限を取り入れる考え方について
- (2) (仮称) 中央こども園の整備について
- (3) 小中学生の学力向上について
  - ア 教員の超過勤務に関する実態調査の結果について
  - イ 子どもと向き合う時間をつくるため教員の多忙感をなくす必要性について
  - ウ 学力向上に向けた考え方について
- (4) 放課後児童クラブへの支援について
  - ア 市のかかわりを深める考え方について
  - イ 他の自治体では保育料が著しく低い実態について
  - ウ 公設公営方式に対する考え方について
- (5) 全児童対策への取り組みについて
- (6) 中学・高校生の居場所づくりについて
- (7) 小児医療費助成における所得制限の撤廃について
  - ア 撤廃する狙いについて

イ 対象となる世帯数と必要な財政負担額について

## 7 暮らしやすさの復活について

(1) コミュニティバスの導入促進について

ア 運行維持に対する支援の必要性について

イ ランニングコスト圧縮のための電気自動車の活用について

(2) AI（人工知能）を活用した相談機能充実について

(3) コンビニでの収納・住民票交付について

ア 導入しないとした従前の見解に対する市長の考えについて

イ 住民票交付手数料が高額であることによる費用対効果について

ウ 自動交付機導入等の検討について

(4) 福祉現場への介護ロボット導入及び補助制度の具体的な考え方について

## 8 ファシリティマネジメントの推進について

(1) 地域主体による新たな計画づくりについて

(2) 施設の一元管理を行うための担当部署の設置について

(3) 施設を管理する側と使う側とを分離する考え方について

(4) 担当部署の一元管理による管理水準の向上について

(5) 地域コミュニティ再生のために学校施設を利活用することについて

## 9 基地について

(1) 米軍や自衛隊の基地がまちづくりに大きく影響している本市として米国に対しても「言うべきことは言う」姿勢について

(2) 米軍や自衛隊の式典等に夫妻で出席することについて

10 「誰も一人にさせないまち」について

(1) さまざまな不安を抱えている人に寄り添えるまちづくりの具体的な施策化について

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	加藤眞道
発言の会議	平成29年 9月 8日 本会議
発言の種類	質疑、一般質問、緊急質問、討論、その他
質疑等の方式	一括、一問一答
答弁を求める者	市長

### 【件名及び発言の要旨】

#### 1 市長の理念と戦略を合わせた言葉について

- (1) 市長の理念と戦略を合わせたものをキャッチフレーズ的な言葉で言いあらわすとすれば、どのような「横須賀」か。

#### 2 「横須賀復活のための3つの構想」について

##### (1) 海洋都市構想について

- ア 市長が思い描いている「海洋都市」のイメージについて
- イ 行政主導による市内研究所及び企業の研究者・技術者が集まるコミュニティー創設の必要性について
- ウ 海洋関連の学会や国際会議の誘致の必要性について
- エ イメージ戦略として進めている学会や国際会議等の実施予定について
- オ 「地域資源」を有効活用した「海洋教育」の実施について

##### (2) 音楽・スポーツ・エンターテイメント都市構想について

- ア 全国大会出場時の交通費・宿泊費等の助成基準の見直しにつ

いて

イ 横浜DeNAベイスターズの拠点が追浜に集約される機会を最大限生かす取り組みについて

ウ 同球団が真の地元球団となる取り組みについて

エ ファン感謝デーに向け地元とともに盛り上げるための施策について

(3) 谷戸再生構想について

ア 地域コミュニティを主眼とした問題提起であるという捉え方について

イ 今まで行ってきた谷戸政策とコンパクトシティの考え方を今後精査する必要性について

### 3 横須賀復活の4つの計画について

(1) 経済・産業の復活について

ア 中小企業振興策として企業紹介を兼ねた市内企業の製品、技術に関する冊子・マップ作成の必要性について

イ 市内所在の研究施設における研究内容を記載した冊子等の作成について

ウ 「機械遺産」に認定されている機械等を製作している企業の市民周知について

(2) 賑わいの復活について

ア オープントップバスによる横須賀周遊観光コースを京浜急行へ提案する必要性について

(3) 子どもの教育の復活について

ア 小児医療費助成の拡大とあわせ、子どもが病気やケガをしないための「予防」を推進する必要性について

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	大村洋子
発言の会議	平成29年 9月 8日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市 長、教育長

### 【件名及び発言の要旨】

#### 1 市長就任について

横須賀市の最近の60年間を振り返っても横須賀市政のトップリーダーたちはさまざまな方々が就任された。脈々と受け継がれてきた横須賀市政のかじ取り。第37代横須賀市長に上地克明市長が就任された。

- (1) ご自身の強みは何だと思うか。
- (2) 2期8年の現職市長を破って当選を勝ち取った上地市長に市民は何を望み、何を期待しているとお考えか。
- (3) 横須賀とは何か。横須賀のアイデンティティーについて伺いたい。
- (4) みずからの思想・哲学に1ミリの揺らぎもないか。現在の立ち位置についてお考えを示されたい。
- (5) 一たび、国が本市の主権を侵害するような横暴勝手な振る舞いをしようものなら、住民の安全安心のため国にはっきり物を言う、そういう覚悟はお持ちか。
- (6) 私たちは主権を持つのは市民であり住民であると考え。つまり地域主権とは団体自治であるのは当然であるが、住民自治

こそ本務だと考える。この点について市長の認識を伺う。

## 2 基地について

海軍工廠、鎮守府、自衛隊と、好むと好まざるにかかわらず、横須賀は「天領のまち」「海軍のまち」「軍都」であった。進駐軍だった米軍はそのまま我が国に居座り駐留軍となり、横須賀にあっては海に面する広大な土地が米海軍基地によって奪われた。日米軍事同盟のかなめの地として見えない安保と地位協定の紐帯によってがんじがらめにされている、これが横須賀の本質であり土地柄である。

- (1) 我が国と米国が「基本的な価値観を共有している」とはどういう意味か。
- (2) 本市が日米の防衛拠点であるということへの評価を伺う。
- (3) 旧軍港市転換法が求める平和産業港湾都市や本市の基本構想、基本計画にうたわれている「可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合」と基地機能の強化の整合性における評価を伺う。
- (4) 原子力空母など原子力艦船が横須賀に出入りしていることについての評価を伺う。
- (5) ことしに入り、1月、6月、8月と3度にわたって米第7艦隊所属のイージス艦が事故を起こしている。この点についてどのように捉えているか。
- (6) 事故原因の徹底調査と市民への情報公開は求めているか。
- (7) たび重なるイージス艦の事故によって、浦賀水道を航行する船舶等は直接的に、そして陸上で暮らす市民においても安全・安心が脅かされていると思うが、この点についていかがお考えか。
- (8) 今夏配備予定であったイージス艦ミリウスは来年へと配備が延期された。一連のイージス艦の事故を受けて、少なくとも「ミリウス」の横須賀への追加配備を中止するよう国に要請する必要があると思うが、いかがお考えか。

- (9) オスプレイについての評価を伺う。災害救助に役に立つと思われるか。
- (10) 日米地位協定は改定の世論が高まっているが、米海軍基地を有する本市としてはどの点を重視されるか。
- (11) かつて上地市長は「基地は国道 357 号を分断していて横須賀市にとってはかり知れない経済の損失を与えてきた。」とおっしゃっていた。このように明確に逸失利益論をお持ちだが、今後どのような行動をされる予定か。

### 3 子どもの施策について

所信表明や公約には子どもの施策が具体的に提案されている。ぜひ、強力に前進させていただきたい。

- (1) 一連の子ども施策について工程表を示されたい。
- (2) 「新入学児童生徒学用品費等」をことし中に速やかに支給するために経費を増額計上することが提案された。この点に関連して以下を伺う。
  - ア 支給時期は具体的にいつになるのか、教育長に伺う。
  - イ 対象は要保護、準要保護両方の児童生徒か、教育長に伺う。
  - ウ 支給額は要保護、準要保護ともに同じ額か、教育長に伺う。
  - エ 単価の改正について具体的に示されたい、教育長に伺う。
  - オ 必要な時期に必要な児童生徒に必要な支給額が渡らないという実態は、「新入学児童生徒学用品費」に限らない。例えば修学旅行費などがそうだ。このような実態を調査して改善していくことが必要と考えるが、市長及び教育長にお考えを伺う。
- (3) 子どもの貧困について総合的な調査、分析が決定的に必要なだ。既に着手していると思うが、どのような進捗状況か、示されたい。
- (4) 所信表明の中で市長は「子どもの教育の復活」の項目で『全国学力・学習状況踏査』の結果において全国平均を下回って

る本市小中学生の学力を向上させていくことは、重要な課題と認識しています。」とおっしゃっている。

ア 市長がお考えになっている「学力」とはどのようなものを指しているのか。

イ テストの正答率向上を本気で考えるならば、本市の子どもたちの傾向をしっかりとつかみ貧困世帯に照準を当てて、効果的な対応をしていくことが必要だ。市長のお考えを伺う。

#### 4 ファシリティマネジメントについて

前任の市長は横須賀のまちづくりに対する大きなビジョンが希薄だったことから、市民の中に混乱と失望を拡大してしまった。今後は是非、この教訓を生かし、市民に受け入れられる事業となるよう期待する。

- (1) 市長は「現行の計画は凍結し、一度立ちどまって精査」とおっしゃっている。この姿勢は賢明であり、私たちも支持する。同時にこれはことしの3月に発表されたインフラの管理計画である「公共施設等総合管理計画」と合わせて、その整合性を含めて再検討されるものと受け止めたが、そういう認識でよろしいか。
- (2) 「将来像などについての戦略的なプラン」はいつまでに誰がどのように作成されるのか。
- (3) 具体的には産業交流プラザの指定管理者は来年の4月で契約の期限切れだが、どのような対応を取られるお考えか。
- (4) ファシリティマネジメントはまちづくりそのものであるという認識を市全体に流布させることは、我こそが横須賀をつくるという意識を市民の中に醸成させるよい機会と考える。このような市民参加の手法を取り入れるべきと考えるが、いかがお考えか。
- (5) 本腰を入れて取りかかるならば、政策推進部が全体を俯瞰して軸になって主管し、強力にサイドから住民と直結する市民部が支援するということが必要だと私たちは考える。もちろん、

全部局が一丸となって進めていくことは必要であり、今までどおり財政部の重要度は言わずもがなである。以上のような推進体制の再構築を提案したいと思うが、いかがお考えか。

- (6) 市長がおっしゃる「地域コミュニティの再生に寄与するよう  
な」という点で言えば、現在行われている「小中学校適正配置  
審議会」における実施計画づくりは、地域におけるコミュニテ  
ィと小学校との関係を考える上で、非常に重要だと考えるが、  
市長はいかがお考えか。

## 5 「横須賀復活」について

所信表明の中で、市長は「横須賀復活」の先にあるものは「誰も一人にさせないまち」であり、その内容は「日々のことや将来に対して不安を抱えている方々に、寄り添えるまちにすること」が最終目標であり、そのためには「協調と連帯」が図られたまちとして「全員野球」で取り組む必要があるとおっしゃっている。

- (1) 「日々のことや将来に対して不安を抱えている方々が、寄り添えるようなまち」この当たり前のような精神がなぜ横須賀では希薄になってしまったのか分析しなければならないと思うが、いかがお考えか。
- (2) また、市長がおっしゃる「地域コミュニティの再生」と地域運営協議会の関係性はどのように捉えたらよいのか。
- (3) 地域運営協議会は、「市の下請け機関ではない、市との協力協同・コラボレーション」と言われてきた。地域運営協議会のあり方についてどのようにお考えか。
- (4) 市長がおっしゃる「全員野球」で行う「横須賀復活」と市民のかかわりについてどのようにお考えか。
- (5) また、市民と意見交換会の機会を持つようなお考えはあるのか。
- (6) かつて、上地市長は議員時代に「新生よこすか」を名乗り、「新家族主義と地域社会の再建」を基本理念として持たれていた。  
ア 「新生よこすか」の基本理念「新家族主義と地域社会の再建」

について、現在どのようにお考えか。

イ 国は時に都合よく「相互扶助」という言葉を用いて、「自助」「互助」を使い公的制度にまで届かないようにしている嫌いが見受けられる。最も住民に近い地方行政にあっては、的確な事態認識を持って、「公助」を適切に行うことが市長の役割と思うが、いかがお考えか。

## 6 「忠恕」の心と職員の働き方について

市長は「公務員である前に、人として、思いやりのある人間であってほしい。」「なぜ、その事業を始めることとなったのか、事業の先には、必ず、市民がいる。その市民に思いをはせる人であってほしい。」と職員に「忠恕」を説く。

- (1) このような市長の思いをしっかりと伝えるために、幹部職員のみならず、若手の職員も対象にして意見交流するような機会は考えていらっしゃるか。
- (2) 「忠恕」の心を職員に発揮してもらうためには、心身ともに職員にはベストコンディションで職務を全うしてもらわなくては行けない。過酷な時間外労働をしなければ、仕事が進まないような状況を一刻も早く改善しなくてはならないと考えるが、いかがお考えか。
- (3) 来年度に向けて、職員の配置、人数についても俯瞰し、対応すべきと思うが、いかがお考えか。

## 7 財政について

- (1) 小児医療費助成制度の対象年齢の中学3年生までの3年引き上げと所得制限の撤廃の提案には率直に驚きをもって歓迎する。このような大胆な積極投資に至るお考えの過程、背景、意義について伺う。
- (2) 今後、市長の任期中に大きな財政出動が予想されるものにどのようなものがあるとお考えか。具体的に施策・事業を挙げて示されたい。また、それらの事業を遂行するための財源の根拠

をわかる範囲で示されたい。

- (3) 私たちは以前から、大げさな財政危機論を市民や職員に喧伝することは要望・要求の委縮、抑制へとつながると警鐘を鳴らしてきた。決して浪費せよと言っているのではない。しかし、今までのようないくら借金を返したとかそのようなことに一喜一憂する財政運営であってはならないと考える。市長のお考えを改めて伺う。
- (4) 他方で、とりわけ大きな財政出動には政治決断、つまり市長から明確な根拠が語られなければならないと考える。自分の納めた税金がどのように運用されるのか、市民にわかりやすく理解していただくために、市長はどのような努力をされるか。

## 8 中小企業振興と労働者の賃金保障について

- (1) 本市の中小企業を取り巻く現状についてどのような認識をお持ちか。
- (2) 市長は所信表明で、「アドバイザー制度、再チャレンジできる融資制度、人材紹介制度等をつくっていきます。」とおっしゃった。ぜひ、中小企業の振興に力を入れていただきたいと思うが、決意を示されたい。
- (3) 過去にサンセット事業として行い、費用対効果も証明済みである住宅リフォーム助成制度は、地域でお金が回る仕組みである。私たちはこの仕組みを市が大いに支援していくことが大切と考える。市長のお考えを伺う。
- (4) 公共事業における労働者の雇用のあり方についての契約である公契約条例が全国でも制定されている。市長はこの公契約条例についてどのような評価をお持ちか。

## 9 所信表明で言及されていない点について

- (1) 人口減少社会について、選挙では市長のテーマだったのだから、市民に向けて正面切って言及されてもよかったのではないか。

- (2) 市民のゆりかごから墓場までの全ての施策を詳細に所信表明するのは無理というもの。しかし、全く触れられていない部分もかなりあった。そのような分野を注視する市民に対して、市長はどのようにお応えするのか。

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	小室卓重
発言の会議	平成29年 9月 8日 本会議
発言の種類	質 疑、一般質問、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、一問一答
答弁を求める者	市 長

### 【件名及び発言の要旨】

#### 1 横須賀の復活について

- (1) 「復活」と「誰も一人にさせないまち」の関係性について

#### 2 基本方針について

- (1) 市長が政治・行政の要諦と考える「住民福祉の向上と経済の活性化」における住民福祉が指すものについて
- (2) 基本方針である積極投資の投資先について

#### 3 横須賀復活のための3つの構想について

- (1) 海洋都市構想において、自由が丘、吉祥寺、麻布を例えに挙げた意図について
- (2) マリンレジャー・マリンスポーツの充実と、実施する地域の市民の暮らしを守ることの折り合いについて
- (3) 谷戸再生構想において、子どもと大人がともに学び合える場を地域の中につくっていくことに対する考えについて

#### 4 横須賀復活の4つの計画について

##### (1) 経済・産業の復活について

- ア 再開発後のまちにおいて高齢者が買い物難民にならないようにするための方策について
- イ 本市の恵まれた自然の保全に対する考え方について
- ウ 歴史遺産として負の歴史の意味合いもある戦争遺産により平和を発信していく必要性について

##### (2) 子どもの教育の復活について

- ア 幼稚園・保育園の無償化による同園利用者と非利用者との公平性について
- イ 学力向上に向け、子育て支援を優先する必要性について
- ウ 学力向上に向け、スクールソーシャルワーカーを拡充する必要性について
- エ 放課後児童対策全体に対する市長のビジョンについて

##### (3) 暮らしやすさの復活について

- ア AIを活用した相談機能の具体的事例について
- イ 保育現場における働きやすさの推進に向けた具体的な政策について

#### 5 ファシリティマネジメントの推進について

- (1) ファシリティマネジメント推進施策における文言統一の必要性について
- (2) 市長が持つ市民協働に対する期待について

#### 6 基地について

- (1) 「基地のある横須賀に誇りを持つべき」と考えている対象に

ついて

- (2) 市長の言う「私にとっては米軍関係者も市民」の真意について
- (3) 自衛隊、米軍関係者と意見交換をするべき当面の課題について
- (4) 市民と方策を共有するために市主催の市民集会を開催する必要性について

## 発 言 通 告 書

発言者氏名	藤野英明
発言の会議	平成29年 9月 8日 本会議
発言の種類	質疑、一般質問、緊急質問、討論、その他
質疑等の方式	一括、一問一答
答弁を求める者	市長

### 【件名及び発言の要旨】

- 1 横須賀復活のために行政、議会、市民の皆様が一丸となって全員野球で取り組む必要がある、と訴える上地市長に、任期の初めに明確に伝えていただきたいことについて

#### (1) 市民の皆様に対して

ア 市長選挙において、上地候補は複数の政党の推薦を受けた。そのことを、対立する陣営は、上地候補が当選すれば政党の言いなりになると批判してきた。

こうした批判は選挙での常套手段にすぎないが、この機会にあえて伺う。上地市長は推薦を受けた政党のために働く市長なのか。それとも、40万人の横須賀市民のために働く市長なのか。

イ 過去数年にわたり、前市長を大音量で糾弾する街宣車が市役所周辺を初め市内各地で活動していた。市長選挙の際、一部の人々はこの街宣車による活動とその団体を意図的に上地候補と結びつけて語り、攻撃材料としてきた。残念ながらこのデマを真に受けてしまった市民も実際におられる。

もとより当該団体や街宣車による活動と上地市長は全く無関係であること、関係づけは事実無根の誹謗中傷であることを、この際、市民の皆様にも明言していただきたい。

ウ 市長選挙において他の2候補を応援した市民の方々の思いを、上地市長はどう受けとめておられるか。

また、横須賀復活を実現していくために全員野球を訴える上地市長には、他候補を応援した市民の方々に対してぜひ融和を呼びかけていただきたいが、いかがか。

エ 今回の市長選挙の投票率は46.1%にとどまり、投票に足を運ばなかった有権者は、残念だが過半数に上る。この現実を上地市長はどう受けとめておられるか。

オ 横須賀復活のためには、棄権した過半数を超える有権者を含む全ての市民の皆様、このまちの主役であるとの当事者意識を持っていただき、これからの市政の取り組みにぜひ参画していただく必要がある。そこで上地市長は、今回棄権した多くの方々にどのように呼びかけていくのか。

(2) 市議会に対して

前市長と市議会との信頼関係は最終的に完全に崩壊していた。その理由は数多くあったが、1つには議会との議論を軽視する姿勢があった。ディベート技術を用いて質問内容に真正面から答えず、本会議や委員会の貴重な質問時間が空疎な答弁で消えていくことが本当に残念でならなかった。

上地市長には、ぜひ市議会との信頼関係を取り戻していただきたい。そこで、あえて以下の3点を伺う。

ア 上地市長は、議会での質問には真正面から答弁し、常に建設的な議論を行う姿勢を貫いていただけけるか。

イ 前市長は、質問をする会派や個人によってあまりにも短く答弁したり、露骨に態度を変えることがあった。上地市長は、質問者によって答弁や態度を変えるようなことはしない、と宣言していただけけるか。

ウ 前市長は、質問や提案に対して前向きなニュアンスに聞こえる答弁をしながらも、実際には各部局へ何の指示も出していないことも多かった。そのため、後日一つ一つの答弁への実際の対応を全て検証せねばならず、結果的に議会での市長答弁そのものを全く信頼できなくなった。上地市長は、議会でのみずからの答弁に責任を持って、必ず各部局に対して答弁に沿った指

示を出していただけるか。

## 2 市長就任から2カ月、市議時代には知ることができなかった本市の克服すべき課題の多さと大きさについて

- (1) 就任から2カ月、市民、関係団体、県、国との意見交換を重ね、庁内各部局とのヒアリングを行った結果、克服すべき課題の多さと大きさを認識した、と上地市長は述べた。

現状に危機感を持って常に問題提起をしてこられた市議時代の上地市長ではあったが、我々市議会が行政内部の全ての情報にはアクセスできないのも事実だ。そこで、市長職に就任して初めて知った克服すべき課題の多さと大きさとは具体的にどのようなことか、お答えいただきたい。

## 3 基本姿勢として忠恕を市職員に求めるのであれば、借金減らしのために行われてきた過度な退職者不補充と新卒採用の減少をやめ、市民に必要な行政サービスを提供できる十分な職員数の確保を行う必要性について

- (1) 「横須賀市役所はこんなもんじゃない」という思いが私にはある。かつて本市役所にはよき風土があった。政策立案能力の高さからスーパー公務員として全国に知られたり、国の新制度の創設の際に地方自治体の代表として招聘されたり、先進的な政策の文献を出版する職員も多くおられた。また、例えば、旧長寿社会課では、顔の見える関係を築くべく、全ての介護保険施設や介護サービス事業所を訪れて自分の名刺を置いてこい、と現場回りの重要性を先輩は後輩に伝えてきた。個人にも組織にも公務員としての矜持があった。

しかし、財政危機を訴えて借金の返済を最優先にした前市長のもとで、人件費削減のために退職者不補充と新卒採用の絞り込みが徹底された。その結果、職員は目の前の大量の仕事をこなすだけで精一杯となり、スーパー公務員と呼ばれるような存在は消えた。よき風土の例として挙げた旧長寿社会課の教えを今も覚えている係長はいるが、業務量の多さから部下に伝えても実行は不可能だと述べている。市民ニーズの複雑多様化の現

実を前に、福祉部を初め、多くの部局で業務量の増加に比して職員数が足りず、本市役所のよき風土も失われつつある。

上地市長は就任挨拶や所信表明だけでなく、機会があるごとに、各部局に対して市民からの相談には思いやりを持って親身にお聞きするよう指示をしておられると伺っている。けれども、もともと思いやりを持って市民と向き合ってきた職員は多く、この状況でさらに忠恕の心を持ってとなれば、むしろ多くの真面目な職員が潰れてしまうのではないかと私は危惧している。

さらなる思いやりの心を職員に求めるのであれば、増大する業務量に応じた適切な職員数を確保する方針へ、まずは切りかえていただきたい。それは同時に、本市役所のよき伝統と風土を取り戻すことにもなると私は考える。上地市長はどうお考えか。

#### 4 所信表明で述べられた横須賀復活のための3つの構想及び4つの復活計画と、市議時代及び選挙中に訴えていた政策との関係について

##### (1) 横須賀復活のための3つの構想と、上地市長が市議時代及び選挙中に訴えていた政策との関係について

ア 市長選挙を通して訴えてきた3つの構想が、改めて所信表明で正式に語られた。その1つ「音楽・スポーツ・エンターテイメント都市構想」だが、ハコモノづくりと誤解されている方もおられる。3月28日の出馬表明の記者会見を報じた新聞各紙に「アミューズメントパーク建設」と掲載され、選挙中にはこれを対立陣営が「新たなハコモノづくりだ」と批判し続けた。そのため、今もハコモノありきの構想と受けとめている市民がいらっしやるのだ。

そこで、改めて「音楽・スポーツ・エンターテイメント都市構想」とは具体的にどのような施策がなされることなのか、さらに詳しく御説明いただきたい。

また、本構想には何らかの新たな施設建設が含まれるのか、ぜひ明確にお答えいただきたい。

イ 3つの構想は、上地市長が市議時代から一貫して訴えてきた事柄であるため、市長就任後の今も市議時代の考えと全く同じ

なのか否かがまだ明確ではない。特に「谷戸再生構想」については、「谷戸公社の設立」が持論として多くの議員に記憶されている。

現在も市議時代に提唱された、本市が新たに「谷戸公社」を立ち上げ、土地家屋の寄附を受けたり、買い取った上で、大きな枠組みの中で計画をつくり、整備開拓を行っていく手法をお考えなのか。

あるいは、市長就任後の現在は「谷戸公社」設立ではなく、新たに別の手法をお考えなのか、お答えいただきたい。

(2) 横須賀復活の4つの計画と、上地市長が市議時代及び選挙中に訴えていた政策との関係について

ア 計画その3「子どもの教育の復活」について、全国平均を下回っている本市小中学生の学力向上を重要課題と認識し、さらなる取り組みを進めると上地市長は述べた。前市長と変わらないような表現で、率直に私はショックを受けた。所信表明のこの表現だけでは、前市長と同様に、子どもたちに単に詰め込み教育を続けていくと市民に誤解を生みかねないと感じた。

なぜならば、市議時代の上地市長と私は、前市長による学力向上のさまざまな取り組みは、そもそも前提が間違っている、と意見交換を重ねてきたからだ。つまり、子どもたちには、まず衣食住が満たされて安全で安心できる環境が提供されなければ、そもそも学習意欲を持ってない。本市にはさまざまな事情で生活習慣の確立も難しい子どもも多く、子どもたちに心身の健康と安全で安心して生活できる環境を政治と行政が確保することこそが優先課題だ。それから初めて学力や体力の向上があり得ると、二人で幾度も話した。選挙中に前市長の取り組みとの違いを尋ねられた際にも、ひとり親家庭や子どもの貧困問題に強い関心を持ってこられた上地候補のこうしたお考えをお伝えしてきた。

しかし、所信表明の表現ではその部分がすっぽりと抜け落ちている。

そこで、伺いたい。子どもの教育の復活のためにも、まず子どもたちには衣食住と安全で安心できる生活環境の確保がなされるべきで、そのベースの上に学力向上の取り組みが効果を持つ、というお考えに変わりはないか。

## 5 所信表明中の「基地について」では語られなかった、平和を希求する上地市長の強い思いについて

- (1) 選挙前から報道各社や市民団体からのアンケートや公開討論会で日米安保体制や日米同盟、そして基地について問われると、上地候補は「容認」の立場だと回答してきた。

選挙中、それを対立陣営は、まるで「米国従属の好戦的なタカ派」であるかのように批判し続けた。選挙後に市民団体と意見交換した際、そうした批判を真に受けてイメージで上地市長が見られていることを知り、私は残念でならなかった。

そもそも私は原子力空母も米軍基地の存在も容認しない立場だが、上地候補を強く応援したのは、ひとりの人間、上地克明さんが根本的にいかに平和主義者であるか、その思いの強さを知っていたからだ。さきの大戦で最前線に送られたお父様の苦しみや悲しみを幼少期から直視し、戦争を憎み、誰もが自由・平等に暮らせる平和な社会をつくるために、そもそも政治家を志したのが上地市長だ。そうした側面が知られず、誤ったイメージで見られるのは私には耐えがたい。

所信表明では、防衛施設の立地による逸失利益を国に対して求めていくとの市議時代からの持論とともに、世界の中の横須賀を冷静かつリアリスティックに地政学的に見詰めた上で、日米安保体制、日米同盟、米軍基地について語ったものと私は受けとめており、違和感はない。

一方で、所信表明で語られた表現だけでは、平和を求めてやまない上地市長の強い思いが残念ながら全く伝わらなかったことも事実だ。そこでぜひ市民の皆様に対して、戦争と平和に対する上地市長の基本的なお考えを、平和を希求してやまない上地市長らしい言葉で語っていただきたいが、いかがか。

## 6 「誰も一人にさせないまち」を実現するために必要な「地域福祉計画」の策定について

- (1) 「誰も一人にさせない」は、上地市長の生きざまそのものもあらわしている、人々への思いを一言に集約したすばらしいフレーズだ。この実現こそ横須賀復活の先にある最終目標である、との所信表明に私は強く賛同する。

現在、国は「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けて、平成 28 年から閣議決定を初め、「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の設置や法改正などさまざまな体制整備を進めている。この国の動きと、上地市長の「誰も一人にさせないまち」とは、同じ方向を目指すものだと私は受けとめている。

社会福祉法の改正により、市町村は包括的な支援体制づくりを進めていかねばならないが、それらを計画的に推進していくために「市町村地域福祉計画」の位置づけが見直された。これまでの障がい福祉、子ども家庭福祉、高齢福祉などの分野別計画の上位に位置づけられ、対象はこれらに加えて複合・多問題に苦しむ人々や制度のはざまでも SOS を発信できない人々などが加わり、計画策定は努力義務化された。しかし、これまで前市長は「地域福祉計画」を策定せず、策定を求める議会質疑にも今後研究すると消極的な答弁をただけだ。その結果、全国の中核市で未策定は 2 市のみ（厚生労働省・平成 28 年度調査、全国担当課長会議資料より）となり、本市は大変情けない状況にある。

「誰も一人にさせないまち」をつくるという上地市長の思い、「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現という国の方向性、この両者を実現する手段の一つとして、多様な主体の参加による策定過程を重視した「地域福祉計画」の策定は不可欠であり、上地市長にはぜひ策定に乗り出していただきたい。

ただ、本計画は多様な主体の参画によって合意形成を図って策定するプロセスそのものが重要であることから、単に早く策定すればよいものではなく一定の期間も必要である。

そこで、「誰も一人にさせないまち」の実現のためにも、上地市長の 1 期目の任期中に「地域福祉計画」の策定を始める、と約束していただけないか。